

道徳教育観と権威主義的伝統主義及び Dark Triad との関連 (2)

—保育者と教員を対象とした比較検討—

* 越 中 康 治 • ** 目久田 純 一

Relationship between Views of Moral Education, Authoritarian Conservatism and Dark Triad (2):
Comparative Analysis of Caregivers and Teachers

ETCHU Koji and MEKUTA Jun-ichi

要 旨

本研究の目的は、保育者と教員の道徳教育に対する考え方と権威主義的伝統主義及び Dark Triad との関連について、性差及び属性による違いを含めて探索的に検討を行うことであった。本研究からは、大きくわけて以下の3点が確認された。第1に、権威主義的伝統主義傾向の強い現職者ほど、道徳教育において価値や美徳を伝えることを重視し、道徳的な成熟は美徳を身につけることであると認識する傾向にあった。第2に、Dark Triad 傾向(中でもマキャベリアニズムとサイコパシー傾向)の強い現職者ほど、人間の本質は悪であり、抑制されなければならないと認識する傾向にあった。第3に、現職者の道徳教育観においては、性差に加えて属性(保育者・教員)による違いも見出された。教員においては女性に比して男性が、人間の本質は悪であり、道徳は社会によって異なると認識する傾向にあった。また、保育者に比して特に男性教員は、教育の目的を集団のためと認識する傾向にあった。ただし、現職者を対象とした本調査と学生を対象とした予備調査とは相反する結果も見受けられ、結果の一般化には慎重さを要するものと考察された。

Key words : 道徳教育観、権威主義的伝統主義、Dark Triad、保育者、教員

I. 問題と目的

教育学部生を対象として道徳教育に対する考え方と権威主義的伝統主義及び Dark Triad との関連について予備的に検討を行った越中(2018)は、調査の主要な結果として以下の3点を挙げている。第1に、権威主義的伝統主義傾向の強い学生は、教育は集団のためであると認識し、道徳教育において価値や美徳を伝えることと行動の習慣化を重視する傾向にあることが示された。第2に、Dark Triad 傾向の強い学生は、道徳は外から与えられるものであり、道徳教育においては価値や美徳を伝えるべきと認識する傾向にあることが示された。第3に、道徳教育観には性差が認めら

れ、女性に比べて男性は、人間の本質は悪であり、道徳は外から与えられるものであり、道徳は社会によって異なると認識するとともに、道徳教育においては価値や美徳を伝えることを重視する傾向にあることが示された。こうした予備的検討から、道徳教育観とパーソナリティとの関連を検討する上では、性差を十分に考慮することの必要性が示唆された。

本研究では、これらの結果を踏まえた上で、現職の保育者(保育士及び幼稚園教員)及び教員における道徳教育観とパーソナリティ(権威主義的伝統主義と Dark Triad)との関連を探索的に検討する。まず、道徳教育に対する現職者の考え方と権威主義的伝統主義との関連に関する先行研究として、例えば、越中(2013)

* 学校教育講座

** 梅花女子大学心理こども学部

は、現職の小学校教員を対象とした質問紙調査において、教職に就く前と教職に就いている現在の道徳教育に対するイメージをSD法により尋ね、権威主義的伝統主義との関連を検討している。その結果、権威主義的伝統主義傾向の強い小学校教員は、教職に就く前も現在も一貫して、道徳教育に対して「はげしい」「強い」というイメージをもっていることが示されている。こうした結果を踏まえると、Character EducationやMoral Reasoning Educationのような道徳教育へのアプローチ(Graham, Haidt, & Rimm-Kaufman, 2008; 首藤, 2009)に対する認識に関しても、権威主義的伝統主義との間に何らかの関連が示されることが予想される。

また、越中(2016)は、保育者(保育士及び幼稚園教員)と小学校教員を対象として、幼稚園や保育所(園)の年長児(5歳児)の道徳発達に関するイメージと権威主義的伝統主義との関連を検討している。その結果、年長児について、保育者が「自分のことは自分ですることができ、自分の気持ちを抑えて我慢することができる」とイメージするのに対し、小学校教員は「やって良いことと悪いことの区別が難しく、大人が正しいと言えば何でも正しいと判断する」とイメージする傾向にあることが示されている。他方、権威主義的伝統主義の影響も認められ、権威主義的伝統主義傾向の強い保育者・教員ほど、年長児は「やって良いことと悪いことの区別が難しい」とイメージすることも確認されている。道徳発達や道徳教育に対する認識には、パーソナリティによる影響だけでなく保育者・教員といった属性による違いもあることが予想されるため、両者の関係をあわせて検討する必要があると考えられる。

さらに、Dark Triadに関しては、近年、本邦においても、保育者を対象とした研究(阿部・太田, 2017; 太田・阿部, 2017)などが進められつつある。例えば、太田・阿部(2017)は、保育士を対象として、専門性認知とDark Triadとの関連を検討している。その結果、保育士においては大学生と比較してDark Triadの得点が低いことが示されるとともに、保育士においてはサイコパシーが高いほど、専門性認知のうち「子育て支援」と障害児保育等の「発達支援」との間に有意な負の相関が見られることが明らかにされている。この結果から、太田・阿部(2017)は、サイコパシーの高さが虐待等の対応といった専門性認知の障がい

になっている可能性を指摘している。こうした研究知見を踏まえると、保育者・教員の専門性に深く関わる道徳教育に対する考え方においても、Dark Triadとの関連が見出されることが予想される。

以上を踏まえ、本研究では、保育者と教員の道徳教育に対する考え方と権威主義的伝統主義及びDark Triadとの関連について、性差及び属性による違いを含めて探索的に検討を行うこととする。

II. 方法

1. 調査対象者及び調査方法

2016年7月から9月にかけて実施された保育者・教員向けの講習・研修等の参加者を対象に質問紙調査を実施した。調査は講習等の冒頭で実施し、一斉に配布・回収した。調査は無記名式であり回答は任意であること、講習等の評価とは一切無関係であり質問紙を提出しなくても不利益は生じないことを明記し、口頭でも伝えた。未提出者や欠損値のあった者を除き、結果として、幼稚園・保育所・認定こども園等の保育者85名(男性0名、女性85名)と教員103(男性40名、女性63名)から回答を得た。なお、教員の勤務先の内訳は小学校67名、中学校16名、高等学校15名、特別支援学校5名であった。また、保育者の平均年齢は40.7歳($SD=7.7$, range: 30-56)、教員の平均年齢は42.0歳($SD=8.5$ range: 27-54)であった。

2. 調査内容

調査内容は以下の通りであった。

(1) 道徳教育観に関する8項目

越中(2018)の道徳教育観に関する8項目を提示した。なお、これらの項目は、首藤(2009)及びGraham et al.(2008)を参考にして、越中(2018)において独自に作成されたものであった。これらの8項目は、道徳教育についての2つの考え方(A: Character Education, B: Moral Reasoning Education)を対で提示し、自分の考えについて4件法(「4. Aに近い」「3. どちらかといえばAに近い」「2. どちらかといえばBに近い」「1. Bに近い」)で回答を求めるものであった。各項目の観点(及び項目対の概要)は、①価値伝達の是非(A: 大人から子どもへ価値や美徳を伝えることが大切, B: 価値や美徳を教え込むべきでは

ない), ②道徳発達 (A: 大人が正しい行動を習慣化させることが大切, B: 何が正しいことかを子ども自身が考えることが大切), ③教育の目的 (A: 集団や社会全体のため, B: 個々の子どもたちのため), ④人間の本质 (A: 悪であり, 抑制が必要, B: 善であり, 抑制からの解放が必要), ⑤躰・規律の訓練 (A: 子どもが大きくなってからも常に必要, B: 大きくなってからはむしろ有害), ⑥道徳的権威 (A: 外在的であり, 道徳は外から与えられる, B: 内在的であり, 道徳の源泉は子どもの内にある), ⑦道徳的文脈 (A: 道徳は社会の文化や伝統によって異なる, B: 社会や文化によらず普遍的である), ⑧道徳的成熟 (A: さまざまな価値や美徳をバランスよく身につけること, B: 既存の慣習やきまりに依存せず, 何が公平・公正かを考えられること) であった。

(2) 権威主義的伝統主義

敷島他 (2008) の「権威主義的伝統主義尺度」5項目を用い, 「6. とてもよくあてはまる」～「1. 全くあてはまらない」の6件法で回答を求めた。

(3) Dark Triad

田村他 (2015) の「日本語版 Dark Triad Dirty

Dozen (DTDD-J) 」(マキャベリアニズム, サイコパシー傾向, 自己愛傾向の各4項目, 計12項目)を用い, 「5. 非常にあてはまる」～「1. 全くあてはまらない」の5件法で回答を求めた。

III. 結果と考察

分析にさきかけて, 権威主義的伝統主義尺度5項目の合計得点 ($M=14.55$, $SD=3.31$) の中央値 (15点) に基づき, 対象者を権威主義的伝統主義高群 (15点以上) と低群 (15点未満) に群分けした。保育者では権威主義的伝統主義高群が51名 (すべて女性), 低群が34名 (すべて女性), 教員では高群が52名 (男性21名, 女性31名), 低群が51名 (男性19名, 女性32名) となった。なお, 権威主義的伝統主義得点に関しては, 保育者 ($M=15.04$, $SD=2.99$) が教員 ($M=14.15$, $SD=3.53$) よりも有意に高い傾向にあった ($t(185.86)=1.85$, $p<.10$)。他方, 教員間では, 男性 ($M=14.45$, $SD=3.24$) と女性 ($M=13.97$, $SD=3.71$) との間で有意差は認められなかった ($t(101)=0.67$, $n.s.$)。教育学部生を対象とした越中 (2018) では, 権威主義的伝統主義尺度の合計得点について, 男性の平均が12.80, 女性の平均が13.18であったが, 本研究の結果と対比すると, 現職者の値の方が相対的に高く

Table 1 道徳教育観の平均値及び標準偏差と2要因分散分析結果 (属性×権威主義的伝統主義)

	保育者		教員		F 値 (自由度)		
	高群 (n=51)	低群 (n=34)	高群 (n=52)	低群 (n=51)	属性 (1, 184)	権威主義 (1, 184)	交互作用 (1, 184)
①価値や美徳を伝えるべき	3.20 (0.66)	2.97 (0.57)	3.14 (0.59)	2.78 (0.75)	1.61	8.71** 高>低	0.41
②行動を習慣化	2.28 (0.79)	2.44 (0.85)	2.33 (0.80)	2.33 (1.04)	0.04	0.43	0.37
③教育は集団のため	2.06 (0.75)	1.74 (0.85)	2.10 (0.74)	2.16 (0.67)	4.21* 教>保	1.38	2.95†
④人間の本质は悪	2.24 (0.55)	2.18 (0.75)	2.15 (0.74)	2.20 (0.66)	0.09	0.01	0.25
⑤しつけや訓練が必要	2.63 (0.66)	2.62 (0.91)	2.64 (0.68)	2.63 (0.79)	0.01	0.01	0.00
⑥道徳は外から与えられる	2.31 (0.67)	2.38 (0.69)	2.21 (0.63)	2.14 (0.79)	2.75† 保>教	0.00	0.47
⑦道徳は社会によって異なる	2.63 (0.66)	2.50 (0.85)	2.64 (0.76)	2.77 (0.83)	1.39	0.00	1.24
⑧成熟は美徳を身につけること	2.51 (0.70)	2.18 (0.82)	2.67 (0.75)	2.61 (0.74)	7.03** 教>保	3.16† 高>低	1.43

注) ** $p<.01$, * $p<.05$, † $p<.10$

なっているといえそうである。

1. 道徳教育観に関する8項目における群間差

(1) 保育者と教員の比較

道徳教育観に関する8項目について、属性と権威主義的伝統主義の高低による差異を検討するために2要因分散分析を行った結果をTable 1に示す。なお、①～⑧の得点は高いほどAの考え方(すなわちCharacter Education)に近いことを意味している。そのため、これ以降の表の中では、例えば「①価値伝達の是非」であれば「①価値や美徳を伝えるべき」のように、Aの考え方の内容を示すこととする。

さて、Table 1に示された通り、まず、「①価値伝達の是非」において権威主義的伝統主義の主効果が認められ、「⑧道徳的成熟」においても権威主義的伝統主義の主効果に有意傾向が認められた。これらの項目については、権威主義的伝統主義の高群ほどAに近く、権威主義的伝統主義傾向の強い現職者ほど、道徳教育においては「①価値や美徳を伝えるべき」であり、「⑧成熟は美徳を身につけること」と認識する傾向にあることが示された。

また、「③教育の目的」と「⑧道徳的成熟」の2項目においては、属性の主効果が有意であった。これらの

項目について、保育者に比して教員はAに近く、「③教育は集団のため」であり、「⑧成熟は美徳を身につけること」と認識する傾向にあった。他方、「⑥道徳的権威」に関しても属性の主効果に有意傾向が見られたが、ここでは逆に、教員に比して保育者がAに近い傾向が認められた。教員に比して保育者の方が、「⑥道徳は外から与えられる」と認識していることが窺われた。

(2) 教員における男女の比較

さて、上記の結果については、保育者が全員女性であったのに対し、教員には男女双方が含まれていた。そのため、保育者と教員の違いについて、属性によるものといえるのか、性別の違いが反映されたものなのかが判然としない。そこで、教員のみを対象として性別と権威主義的伝統主義の高低による差異を検討するために2要因分散分析を行った結果をTable 2に示す。

Table 1における属性の主効果とTable 2における性別の主効果とを見比べると、「③教育は集団のため」のみが対応していることがわかる。Table 1において保育者より教員の得点が高くなったのは、男性教員の得点が比較的高かったことによるものであり、女性保

Table 2 教員における道徳教育観の平均値及び標準偏差と2要因分散分析結果(性別×権威主義的伝統主義)

	男性		女性		F 値(自由度)		
	高群 (n=21)	低群 (n=19)	高群 (n=31)	低群 (n=32)	性別 (1, 99)	権威主義 (1, 99)	交互作用 (1, 99)
①価値や美徳を伝えるべき	3.10 (0.81)	2.68 (0.47)	3.16 (0.37)	2.84 (0.87)	0.66	6.93** 高>低	0.11
②行動を習慣化	2.33 (0.89)	2.37 (1.09)	2.32 (0.74)	2.31 (1.01)	0.03	0.00	0.01
③教育は集団のため	2.38 (0.90)	2.16 (0.59)	1.90 (0.53)	2.16 (0.71)	2.87† 男>女	0.01	2.83†
④人間の本质は悪	2.33 (0.89)	2.53 (0.75)	2.03 (0.60)	2.00 (0.50)	8.93** 男>女	0.34	0.66
⑤しつけや訓練が必要	2.71 (0.83)	2.68 (0.65)	2.58 (0.56)	2.59 (0.86)	0.55	0.00	0.02
⑥道徳は外から与えられる	2.33 (0.71)	2.26 (0.85)	2.13 (0.55)	2.06 (0.75)	1.92	0.22	0.00
⑦道徳は社会によって異なる	2.91 (0.87)	3.05 (0.69)	2.45 (0.61)	2.59 (0.86)	8.36** 男>女	0.85	0.00
⑧成熟は美徳を身につけること	2.57 (0.79)	2.90 (0.64)	2.74 (0.72)	2.44 (0.75)	0.91	0.00	4.35*

注) ** $p<.01$, * $p<.05$, † $p<.10$

育者と女性教員とでは認識に大きな差はない可能性が示唆される。

また、Table 2 では、「⑧道徳的成熟」において交互作用が有意となっている。単純主効果の検定の結果、権威主義的伝統主義低群における性別の効果 ($F(1,99) = 4.62, p < .05$) が有意であり、権威主義的伝統主義低群において女性より男性が有意に高かった。このことが、Table 1 において「⑧成熟は美徳を身につけること」の得点が保育者より教員で高くなったことの一因であったとも考えられる。

他方、これ以外に属性と性別の結果が対応している箇所は見られなかった。Table 2 からは、他に教員内での性差として、女性に比して男性が「④人間の本质は悪」であり「⑦道徳は社会によって異なる」と認識していることが示された。また、保育者を除外した場合にも、「①価値伝達の是非」における権威主義的伝

統主義の主効果は有意であり、高群ほど「①価値や美徳を伝えるべき」と認識していることが確認された。

2. 道徳教育観に関する 8 項目間の相関係数

道徳教育観に関する①～⑧の各項目間の相関係数を Table 3 に示す。なお、Table 3 は、右上が保育者の結果、左下が教員の結果である。Table 3 から、いずれの相関係数も低い値ではあるが、保育者・教員ともに相関係数が負の値を示している部分は皆無であり、多くの項目間で有意な正の相関が示されている。前報(越中, 2018)の学生の場合に比して、A の考え方は A の考え方、B の考え方は B の考え方で関連し合っていることが窺える結果となった。保育者・教員といった現職者においては、学生に比して道徳教育に対する考え方が個人の中で一貫している可能性が示唆される。

Table 3 道徳教育観の各得点間の相関係数

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
①価値や美徳を伝えるべき		.04	.13	.12	.13	.16	.15	.14
②行動を習慣化	.31 **		.37 **	.11	.00	.30 **	.16	.11
③教育は集団のため	.07	.13		.37 **	.26 *	.15	.24 *	.31 **
④人間の本质は悪	.15	.24 *	.15		.36 **	.30 **	.19 †	.13
⑤しつけや訓練が必要	.33 **	.24 *	.22 *	.07		.13	.26 *	.22 *
⑥道徳は外から与えられる	.21 *	.42 **	.17 †	.40 **	.25 *		.36 **	.43 **
⑦道徳は社会によって異なる	.14	.15	.26 **	.23 *	.34 **	.23 *		.41 **
⑧成熟は美徳を身につけること	.33 **	.31 **	.16	.16	.43 **	.30 **	.32 **	

注) 右上は保育者 ($n=85$)、左下は教員 ($n=103$) の結果
** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$ (両側検定)

Table 4 Dark Triad の平均値及び標準偏差と 2 要因分散分析結果 (属性×権威主義的伝統主義)

	保育者		教員		F 値 (自由度)		
	高群 ($n=51$)	低群 ($n=34$)	高群 ($n=52$)	低群 ($n=51$)	属性 (1, 184)	権威主義 (1, 184)	交互作用 (1, 184)
Dark Triad	23.31 (5.94)	22.15 (8.02)	28.94 (6.14)	25.90 (6.99)	21.86** 教>保	4.40* 高>低	0.87
マキャベリアニズム	7.35 (2.71)	6.62 (2.94)	8.52 (2.83)	7.51 (2.75)	6.02* 教>保	4.33* 高>低	0.11
サイコパシー傾向	7.55 (2.36)	7.85 (2.89)	9.39 (2.41)	8.94 (2.85)	13.94** 教>保	0.03	0.91
自己愛傾向	8.41 (2.74)	7.68 (3.31)	11.04 (2.86)	9.45 (3.23)	23.69** 教>保	6.60* 高>低	0.89

注) ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$

3. Dark Triadの各得点における群間差

(1) 保育者と教員の比較

DTDD-Jの総合得点(Dark Triad)とマキャベリアニズム、サイコパシー傾向及び自己愛傾向の各下位尺度得点について、属性と権威主義的伝統主義の高低による差異を検討するために2要因分散分析を行った結果をTable 4に示す。Table 4から、まず、属性に関して、総合得点と3つの下位尺度得点のすべてについて、保育者よりも教員の方が有意に高いことが確認された。また、総合得点とマキャベリアニズム及び自己愛傾向に関して、権威主義的伝統主義の主効果が有意であり、いずれも低群より高群において得点が高かった。

なお、教育学部生を対象とした前報(越中, 2018)では、例えばDark Triadの総合得点の平均について、男性の権威主義的伝統主義高群では34.33、低群では33.49、女性の高群では32.07、低群では27.98と軒並み高い値を示していた。学生に比して現職者(特に保育者)では、Dark Triadの得点が低くなることが確認された。

(2) 教員における男女の比較

ただし、上記の結果について解釈する上では、道徳教育観に関する8項目における群間差と同様に、教員にのみ男性が含まれていたことを考慮する必要がある。そこで、教員のみを対象として性別と権威主義的伝統主義の高低による差異を検討するために2要因分散分析を行った結果をTable 5に示す。結果として、Dark Triadの総合得点とマキャベリアニズム及びサイコパシー傾向の各下位尺度得点に関しては性別の主効果が有意であり、女性教員に比して男性教員がより得点が高かった。ただし、Table 4の保育者の数値とTable 5の女性教員の数値を見比べてみても、保育者の得点は相対的に低くなっている。このことを踏まえると、教員に男性が含まれていたことで保育者と教員の差がより顕著となった部分はあるとしても、先行研究(太田・阿部, 2017)においても指摘されていた通り、保育者のDark Triadの得点は他の集団と比較して一般に低いといえそうである。

Table 5 教員におけるDark Triadの平均値及び標準偏差と2要因分散分析結果(性別×権威主義的伝統主義)

	男性		女性		F値(自由度)		
	高群 (n=21)	低群 (n=19)	高群 (n=31)	低群 (n=32)	性別 (1, 99)	権威主義 (1, 99)	交互作用 (1, 99)
Dark Triad	30.95 (5.19)	29.16 (7.05)	27.58 (6.35)	23.97 (6.19)	11.11** 男>女	4.43* 高>低	0.50
マキャベリアニズム	9.48 (2.77)	9.05 (2.98)	7.87 (2.69)	6.59 (2.13)	14.28** 男>女	2.50	0.63
サイコパシー傾向	9.62 (2.77)	10.26 (2.83)	9.23 (2.12)	8.16 (2.55)	5.72* 男>女	0.17	2.69
自己愛傾向	11.86 (2.36)	9.84 (3.15)	10.48 (3.04)	9.22 (3.25)	2.60	7.01** 高>低	0.37

注) ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$

Table 6 権威主義的伝統主義とDark Triadとの相関係数

	A	D	M	P	N
権威主義的伝統主義(A)		.15	.17	.03	.15
Dark Triad(D)	.26**		.84**	.78**	.82**
マキャベリアニズム(M)	.21*	.85**		.52**	.53**
サイコパシー傾向(P)	.07	.68**	.39**		.44**
自己愛傾向(N)	.31**	.81**	.58**	.25**	

注) 右上は保護者(n=85)、左下は教員(n=103)の結果
** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$ (両側検定)

4. 権威主義的伝統主義と Dark Triad の相関係数

権威主義的伝統主義 (A), Dark Triad の総合得点 (D), マキャベリアニズム (M), サイコパシー傾向 (P) 及び自己愛傾向 (N) の各下位尺度得点の相関係数を Table 6 に示す。なお, Table 6 も, 右上が保育者の結果, 左下が教員の結果である。Table 6 から, 教員では権威主義的伝統主義と Dark Triad の総合得点, マキャベリアニズム及び自己愛傾向との間に有意な正の相関が認められたが, 保育者では権威主義的伝統主義との間に有意な相関は認められなかった。他方,

Dark Triad の各得点間の相関については, 保育者・教員ともに総合得点とすべての下位尺度との間に有意な正の相関が認められ, 先行研究 (田村他, 2015) 及び前報 (越中, 2018) とは異なる結果となった。

5. 道徳教育観とパーソナリティとの関連

対象者である現職者 (保育者・教員) 全体における道徳教育観と権威主義的伝統主義及び Dark Triad の各得点との相関係数を Table 7 に示す。いずれの相関係数も低い値ではあるが, あくまで参考までに結果を

Table 7 現職者 (N=188) における道徳教育観と諸尺度との相関係数

	A	D	M	P	N
①価値や美徳を伝えるべき	.30 **	-.07	-.02	-.16 *	-.01
②行動を習慣化	.02	-.05	-.08	-.06	.01
③教育は集団のため	.01	.08	.04	.00	.15 *
④人間の本質は悪	.02	.16 *	.18 *	.15 *	.06
⑤しつけや訓練が必要	.12	-.06	-.04	-.07	-.04
⑥道徳は外から与えられる	.07	.09	.06	.09	.06
⑦道徳は社会によって異なる	-.04	.12	.11	.08	.09
⑧成熟は美徳を身につけること	.11	.11	.08	.03	.14 †

注) ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$ (両側検定)

概観すると, 学生を対象とした前報 (越中, 2018) と同様に, 現職者においても権威主義的伝統主義得点が高いほど, 「①価値や美徳を伝えるべき」と認識する傾向にあることが示された。また, Dark Triad (及びマキャベリアニズムとサイコパシー傾向) と「④人間の本質は悪」との間に正相関, 自己愛傾向と「③教育は集団のため」及び「⑧成熟は美徳を身につけること」

との間にも正相関 (及び有意傾向) が見られた。

さらに, 保育者 (Table 8) と教員 (Table 9) のそれぞれの結果を確認すると, 全体の結果のうち, 権威主義的伝統主義と「①価値や美徳を伝えるべき」との正相関や Dark Triad (及びマキャベリアニズム) と「④人間の本質は悪」との正相関は, 教員における傾向が反映されたものと見て取れる。また, 権威主義的伝統

Table 8 保育者 (n=85) における道徳教育観と諸尺度との相関係数

	A	D	M	P	N
①価値や美徳を伝えるべき	.18	-.02	.08	-.04	-.08
②行動を習慣化	-.07	.16	.07	.13	.19 †
③教育は集団のため	.20 †	.05	-.03	-.03	.16
④人間の本質は悪	.06	.10	.07	.18	.01
⑤しつけや訓練が必要	.15	-.13	-.13	-.06	-.11
⑥道徳は外から与えられる	.04	.20 †	.12	.21 †	.16
⑦道徳は社会によって異なる	-.03	.06	-.03	.01	.15
⑧成熟は美徳を身につけること	.22 *	.13	.12	.02	.18 †

注) ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$ (両側検定)

Table 9 教員 (n=103) における道徳教育観と諸尺度との相関係数

	A	D	M	P	N
①価値や美徳を伝えるべき	.36 **	-.06	-.06	-.20 †	.10
②行動を習慣化	.08	-.21 *	-.19 *	-.18 †	-.12
③教育は集団のため	-.11	.04	.07	-.05	.07
④人間の本性は悪	-.02	.23 *	.28 **	.16	.11
⑤しつけや訓練が必要	.11	-.01	.04	-.08	.01
⑥道徳は外から与えられる	.06	.08	.05	.08	.07
⑦道徳は社会によって異なる	-.03	.13	.20 *	.09	.01
⑧成熟は美徳を身につけること	.10	-.02	-.01	-.05	.02

注) ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$ (両側検定)

主義と「⑧成熟は美徳を身につけること」との正相関は、保育者傾向が反映されたものと見て取れる。さらに、教員においては、マキャベリアニズムと「⑦道徳は社会によって異なる」との間にも正相関が示されている。以上の結果から、学生を対象とした前報(越中, 2018)と同様に、現職者においてもAの考え方(すなわちCharacter Education)と権威主義的伝統主義及びDark Triadとの間には正の相関が示される傾向にあるようにも窺える。

しかしながら、現職者全体としての結果(Table 7)に関しては、サイコパシー傾向と「①価値や美徳を伝えるべき」との間にのみではあるが、有意な負の相関も示された(Table 9から、これは教員の傾向が反映されたものと見て取れる)。また、教員においてのみではあるが、Dark Triad(中でもマキャベリアニズム及びサイコパシー傾向)と「②行動の習慣化」との間には有意な負の相関(及び負の相関の有意傾向)が示されている。これは、前報(越中, 2018)の教育学部生においてサイコパシー傾向と「②行動の習慣化」との間に有意な正の相関が示されていたこととは相反する結果であった。道徳教育観とパーソナリティとの関係については、男性と女性、学生と現職者、保育者と教員との間で結果が必ずしも一致していない点も含めて、今後さらに検証を重ねていく必要があるであろう。

IV. まとめ

本研究の目的は、保育者と教員の道徳教育に対する考え方と権威主義的伝統主義及びDark Triadとの関連について、性差及び属性による違いを含めて探索的

に検討を行うことであった。本研究から示唆されることは、大きくわけて以下の3点である。

第1に、権威主義的伝統主義傾向の強い現職者ほど、道徳教育において価値や美徳を伝えることを重視し、道徳的な成熟は美徳を身につけることであると認識する傾向にあることが示された(Table 1, Table 7)。これは教育学部生を対象とした前報(越中, 2018)とも共通する結果であった。ただし、教育学部生においては、権威主義的伝統主義とAの考え方(Character Education)と関連する複数の項目との間に関連が認められたのに対して、現職者においては、「①価値伝達の是非」以外の項目との関連はほとんど示されなかった。今後の研究では、学生と現職者との間でこのような違いが生じた背景を探る必要がある。

第2に、Dark Triad傾向(マキャベリアニズムとサイコパシー傾向)の強い現職者(特に教員)ほど、人間の本性は悪であり抑制が必要と認識する傾向にあることが示された(Table 7, Table 9)。また、自己愛傾向の強い現職者ほど、教育は集団のためであり、道徳的な成熟は美徳を身につけることであると認識する傾向にあることが示された(Table 7)。ただし、教育学部生を対象とした前報(越中, 2018)と同様に、Dark Triadに関しては、道徳教育観との関連は明確とならなかった。特に、学生ではDark TriadとAの考え方(Character Education)との間で有意であったのは正の相関だけであったのに対して、教員においては「①価値や美徳を伝えるべき」及び「②行動の習慣化」との間に有意な負の相関が見られた。現職者(特に教員)と学生とでは道徳教育観に関する項目の受け止め方に違いがある可能性も示唆される。こうした点を踏

まえつつ、Dark Triad と道徳教育観との関連については今後も特に慎重に検討を重ねていく必要がある。

第3に、現職者の道徳教育観においては性差に加えて属性（保育者・教員）による違いも見出された。性差に関しては、教員においても学生と同様に、女性に比して男性が、人間の本质は悪であり、道徳は社会によって異なると認識する傾向にあることが示された（Table 2）。また、属性による差異に関して、保育者に比して教員は、道徳的な成熟は美德を身につけることであると認識するとともに、特に男性教員においては教育を集団のためと認識する傾向にあった（Table 1, Table 2）。こうした相違が生じる背景には、先行研究においても指摘されている通り、男性と女性で（田村他, 2015）、さらには保育者とその他の人々との間で（太田・阿部, 2017）、Dark Triad の現れ方が異なることなどもあると考えられる。保育者・教員（及び学生）のパーソナリティと道徳教育観との関連については、より詳細な検討が求められるであろう。

最後に、前報を含む一連の調査で用いた項目のうち、特に独自に作成した道徳教育観に関する項目に関しては十分なものとはいえなかった。道徳教育観とパーソナリティとの関連について検討を重ねていく上では、今後、道徳教育観についての尺度を新規に作成していくことも課題として残された。

引用文献

- 阿部 晋吾・太田 仁 (2017). 保育士の Dark Triad (2) — パーソナリティとの関連 — 日本心理学会第81回大会 Retrieved from <https://www.myschedule.jp/jpa2017/img/figure/10394.pdf> (2018年9月28日)
- 越中 康治 (2013). 小学校教諭における道徳教育のイメージと権威主義的伝統主義との関連—教職に就く前と現在のイメージの相違に焦点を当てて— 宮城教育大学紀要, 48, 221-228.
- 越中 康治 (2016). 幼児期の道徳発達に関する保育者と小学校教諭の認識 宮城教育大学情報処理センター研究紀要: COMMUE, 23, 33-36.
- 越中 康治 (2018). 道徳教育観と権威主義的伝統主義及び Dark Triad との関連 (1) — 教育学部生を対象とした予備的検討 — 宮城教育大学紀要, 53, 印刷中.
- Graham, J., Haidt, J., & Rimm-Kaufman, S. E. (2008). Ideology and intuition in moral education. *European Journal of Developmental Science*, 2, 269-286.
- 太田 仁・阿部 晋吾 (2017). 保育士の Dark Triad (1) — 専門性認知との関連 — 日本心理学会第81回大会 Retrieved from <https://www.myschedule.jp/jpa2017/img/>

figure/10339.pdf (2018年9月28日)

- 敷島 千鶴・安藤 寿康・山形 伸二・尾崎 幸謙・高橋 雄介・野中 浩一 (2008). 権威主義的伝統主義の家族内伝達—遺伝か文化伝達か— 理論と方法, 23, 105-126.
- 首藤 敏元 (2009). 自律的な社会性の発達 教育心理学年報, 48, 75-84.
- 田村 紋女・小塩 真司・田中 圭介・増井 啓太・ジョナソン ピーターカール (2015). 日本語版 Dark Triad Dirty Dozen (DTDD-J) 作成の試み パーソナリティ研究, 24, 26-37.

付 記

本研究は、科研費（15K17263）の助成を受けた。

（平成30年9月28日受理）

